

リハビリテーション学科(理学療法学専攻) シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
2年	11	運動学演習
2年	37	神経障害理学療法学
2年	39	神経障害理学療法学演習
2年	48	理学療法学特論
3年	55	理学療法研究法

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-10				
		●		●						
科目名	運動学演習				単位認定者	森永 雄		評価の方法	口頭試問	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	運動学演習では、「運動学」及び「運動学実習」で身につけた頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動の知識を踏まえ、動作分析のための知識と思考・技術を学修する。臨床現場で観察される基本姿勢・動作を分析するために、分析し、言語・身体表現する能力を身につける。									
到達目標	<p>【実践力】 初歩的な関節運動、バランス、基本動作の仕組みを理解し、言語的かつ身体的に適切に表現することができる。</p> <p>【人間関係力】 メンバーの考えや状況を把握し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図ることができる。</p> <p>チームで生じている対立があった場合に、自ら調整するよう働きかけることができる。</p> <p>【生涯学習力】 発表準備を通して、その他の著書や複数の参考文献を調べ読み、効果的に活用することができる。</p> <p>生じている課題や問題点の一部を切り取り、自ら目標設定し、課題克服に向けた取り組みができる。</p>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目目標の枠を越え、自身が志す理想の理学療法士像に対応した動作分析力の構築に努めましょう。 ・ 授業後の自己学修を通して、信頼性の高い文献を収集し、読み解く能力を高めましょう。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	筋力・筋機能と筋の基本的事項 【一部、反転学習含む】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄		
2	筋力・筋機能① (HHDを用いた測定) 【実験、グループワーク】				全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)			森永 雄 小松 佳路		
3	筋力・筋機能② (BIODEXを用いた測定) 【実験、グループワーク】							森永 雄 坂上 尚穂		
4	発表と筋力・筋機能のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】							森永 雄 小松 佳路		
5	バランス機能とバランスの基本的事項 【一部、反転学習含む】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄		
6	バランス機能① (重心動揺計を用いた測定) 【実験、グループワーク】				全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)			森永 雄 坂上 尚穂		
7	バランス機能② (EMGを用いた測定) 【実験、グループワーク】							森永 雄 小松 佳路		
8	発表とバランス機能のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】							森永 雄 坂上 尚穂		
9	基本動作と動作分析のための基本的事項 【一部、反転学習含む】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄		
10	動作分析① (三次元動作解析装置を用いた測定) 【実験、グループワーク】				全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)			森永 雄 小松 佳路		
11	動作分析② (ビデオを用いた測定) 【実験、グループワーク】							森永 雄 坂上 尚穂		
12	動作分析③ (グループワーク) 【実験、グループワーク、ディスカッション】							森永 雄 小松 佳路		
13	発表と動作分析のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】							森永 雄 坂上 尚穂		
14	運動学のための人体解剖見学実習① 【一部の反転学習含む、フィールドワーク】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄 小松 佳路		
15	運動学のための人体解剖見学実習② 【フィールドワーク】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)			森永 雄 坂上 尚穂		
教科書	『基礎運動学第6版補訂』中村隆一・他、医歯薬出版 * 1年次購入済み									
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』市橋則明・他、メディカルビュー ・ LMSに掲載された参考文献、資料									
備考	<p>1~13回A B別2クラス、14~15回A B合同授業</p> <p>【特性】 ICT教育、測定機器を用いた演習、実験形式が中心。</p> <p>【評価】 「授業内課題(レポート)」は、①筋力・筋機能、②バランス機能、③動作分析、④運動学のための人体解剖の4つのテーマに関する個人レポートが対象であり、予め準備したルーブリックに則り、採点を行う。後日、LMSのフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスをを行う。「口頭試問」は、運動学的な基本知識や授業1、5、9回の内容を加味し、試験を行う。「受講態度」は、実験中の学習態度やグループ活動に対する貢献度、発表・聴講態度、授業後のリフレクション、出欠などを採点対象とする。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永雄：動作分析(分析のための機器利用)に関する長年の臨床経験・研究の経験あり。また、9年間における運動学関連科目(とりわけ身体運動)の教育経験あり、この経験を基に、講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-07				
		●	●	●						
科目名	神経障害理学療法学				単位認定者	小関 友記		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	40 %
					授業形態		講義		授業時間数	60 時間
							授業回数			30 回
授業の概要	中枢神経障害は多くの機能形態障害が重複した障害像を呈し、全体的な障害像をイメージすることが難しい。神経障害理学療法学では、主として脳卒中の障害像を学び、脳卒中に対する理学療法の方と、具体的なアプローチについて学修する。はじめに、脳卒中の病態とリスク管理、脳画像所見、理学療法評価、理学療法プログラム、動作分析やADL評価について理解し、学修する。次に、脳卒中の急性期・回復期・維持期(生活期)の理学療法について学修する。また、頭部外傷や高次脳機能障害に対する理学療法についても学修する。									
到達目標	神経障害の理学療法に関する基礎医学、理学療法評価および基本的治療について学修する。 1. 神経系の構造について理解できるようになる。 2. 脳卒中の病態や障害を理解できるようになる。 3. 急性期・回復期・生活期などそれぞれの時期に応じた理学療法が理解できるようになる。 4. 高次脳機能障害および頭部外傷についても障害像および症状に合わせた理学療法を理解できるようになる。									
学修者への期待等	神経障害のある患者さんを理学療法治療するために必要な講義です。講義内容を理解することで、神経障害に関する基礎知識、理学療法評価、治療プログラムの立案や治療プログラムの実施ができるよう学修してください。教科書をよく読み、予習復習を心掛けてください。講義の内容をふまえた小テストや症例検討もありますので、準備学修をお願いします。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	神経障害理学療法学総論				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください(30分)。				網本 和	
2	中枢神経系の構造のための基礎知識								網本 和	
3	中枢神経系の機能のための基礎知識								網本 和	
4	脳損傷とその回復メカニズム、予後予測								網本 和	
5	脳血管障害の臨床評価・嚥下障害								網本 和	
6	脳血管障害の病態				教科書①80～93ページを参考に、予習資料を実施してください。また、次回の講義にて小テストを実施します(60分)				小関 友記	
7	脳血管障害におけるリスク管理と合併症								小関 友記	
8	脳血管障害におけるリハビリテーション(急性期・回復期・生活期)の流れ				教科書76～79ページを参考に予習資料を実施してください。また、次回の講義にて小テストを実施します。(60分)				小関 友記	
9	脳血管障害の障害像(機能障害・活動制限)				教科書98～152ページを参考に、予習資料を実施してください。また講義内にて小テストを実施します(60分)				小関 友記	
10	脳血管障害の障害構造について				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください(30分)。				森永 雄	
11	脳血管障害に頻用される理学療法評価								森永 雄	
12	脳血管障害に対する急性期理学療法								森永 雄	
13	脳血管障害に対する急性期理学療法の実際								森永 雄	
14	脳血管障害に対する回復期理学療法(1):歩行障害に関する神経生理・バイオメカニクス				教科書200～210ページを参考に予習資料を実施してください。				小関 友記	
15	脳血管障害に対する回復期理学療法(2):歩行障害の評価・治療				教科書211～219ページを参考に予習資料を実施してください。また次回の講義にて小テストを実施します(60分)				小関 友記	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳血管障害に対する回復期理学療法（3）：ADL障害へのアプローチ	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください。また次回の講義にて小テストを実施します（60分）。	小関 友記
17	脳血管障害に対する生活期理学療法	教科書291～305ページを参考に予習資料を実施してください。また次回の講義にて小テストを実施します（60分）	小関 友記
18	課題指向型アプローチについて（講義）	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください。また講義内にて小テストを実施します（60分）。	小関 友記
19	課題指向型アプローチについて（実技・発表）		小関 友記
20	頭部外傷に対する理学療法：病態と評価	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	大和田 宏美
21	頭部外傷に対する理学療法の実際		大和田 宏美
22	高次脳神経障害学総論		網本 和
23	神経解剖学との関連、診断学の進歩		網本 和
24	左半球症状の理解（失語症）		網本 和
25	失行症のメカニズムとアプローチ 運動の高次神経機能障害		網本 和
26	半側空間無視のメカニズム		網本 和
27	半側空間無視への治療アプローチ		網本 和
28	Pusher現象のメカニズム		網本 和
29	Pusher現象のアプローチ		網本 和
30	その他の高次脳機能障害 症例検討・グループワーク	網本 和	
教科書	①『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版』森岡 周, 阿部 浩明 編、奈良 勲 監修、医学書院 ②『病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経』改訂第2版 医療情報科学研究所、メディックメディア		
参考文献	『脳卒中理学療法の理論と技術』改訂第3版 原寛美・吉尾雅春編集、メジカルビュー社 『神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がきまる』手塚純一・増田司著、医学書院 『PT・OTのための高次脳機能障害ABC』網本 和編集、文光堂 『高次脳機能障害学』第2版 石合 純夫 著 医歯薬出版 『脳卒中機能評価・予後予測マニュアル』道免 和久 編集、医学書院 『脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか?』潮見泰蔵編集、文光堂 『理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I』 鈴木俊明編集 MEDICALVIEW		
備考	1～2回：AB合同授業 3～19回：AB別2クラス 20～30回：AB合同授業 前期中に1-17回までの内容に関し、小テストを実施する。希望者には担当教員より後日フィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

小関友記：脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。
大和田宏美：脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。
森永雄：大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RP-2-FLP-08

科目名	神経障害理学療法学演習				単位 認定者	小関 友記		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			

授業の概要
神経障害理学療法学演習では、脳卒中中の障害像を理解し、脳卒中中の病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから脳卒中中の理学療法評価過程を理解したうえで、治療プログラムを立案し、治療技術を実施を行い、脳卒中中の理学療法について理解できることを目的とする。

到達目標
本講義においては、中枢神経に関する解剖学、生理学、運動学と神経系理学療法学で学んだ知識を基礎に、どのように臨床でその知識が用いられ、神経系理学療法治療技術が成立しているのかを学修する。そのためには、以下の具体的目標が到達されることが求められる。
1. 神経系理学療法を実施するために必要な脳画像所見を理解できる。
2. 神経障害患者の姿勢・動作の分析ができるようになる。
3. 神経障害患者に対する理学療法評価および理学療法を立案することができる。
4. 神経障害患者の症例検討を通じて、統合と解釈ができるようになる。

学修者への期待等
実技を行う講義があるため、動きやすい格好を心がけてください。
指定教科書をよく読み、専門用語について理解を深めてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	基礎①：脳画像所見の実際（CT画像）	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	網本 和
2	基礎②：脳画像所見の実際（MRI・MRA画像）		網本 和
3	動作分析①：脳卒中患者の起立・起居動作障害	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	森永 雄
4	動作分析②：脳卒中患者の起立・起居動作評価		森永 雄
5	動作分析③：脳卒中患者の歩行障害		森永 雄
6	動作分析④：脳卒中患者の歩行評価		森永 雄
7	理学療法①：ポジショニング、愛護的関節可動域練習		森永 雄
8	理学療法②：早期離床		森永 雄
9	理学療法③：装具療法		森永 雄
10	理学療法④：装具療法の実際		森永 雄
11	理学療法⑤：基本動作練習（課題指向型トレーニング含む）		森永 雄
12	理学療法⑥：チームアプローチ・脳卒中ユニット		森永 雄
13	理学療法⑦：起居動作に対するハンドリング		森永 雄 小関 友記
14	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング① 神経系理学療法の基礎	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（60分）。	大和田 宏美
15	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング② 神経系障害と理学療法評価		大和田 宏美
16	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング③ 神経系理学療法アプローチ		大和田 宏美

回	授業計画	準備学修	担当	
17	症例①（急性期）理学療法評価の計画	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	森永 雄	
18	症例①（急性期）リサーチ、ディスカッション		森永 雄	
19	症例①（急性期）理学療法治療の立案		森永 雄	
20	症例①（急性期）発表会		森永 雄	
21	症例②（回復期）症例情報の分析		小関 友記	
22	症例②（回復期）理学療法評価の計画		小関 友記	
23	症例②（回復期）理学療法評価の実践（機能）		小関 友記	
24	症例②（回復期）理学療法評価の実践（活動）		小関 友記	
25	症例②（回復期）理学療法治療の計画		小関 友記	
26	症例③（回復期・生活期）理学療法評価の計画		小関 友記 森永 雄	
27	症例③（回復期・生活期）リサーチ、ディスカッション		小関 友記 森永 雄	
28	症例③（回復期・生活期）理学療法治療の立案		小関 友記 森永 雄	
29	症例③（回復期・生活期）発表会		小関 友記 森永 雄	
30	症例③ 理学療法治療の実際		小関 友記 森永 雄	
教科書	『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版』吉尾雅春編集、医学書院 『理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 神経障害理学療法学』諸橋勇、有馬慶美編集、文光堂			
参考文献	『脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション』阿部浩明、大畑光司、MEDICAL VIEW 『脳卒中理学療法の理論と技術』改訂第3版 原寛美・吉尾雅春編集、メジカルビュー社 『神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がきまる』手塚純一・増田司著、医学書院 『脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか?』潮見泰蔵編集、文光堂 『理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I』鈴木俊明編集 MEDICALVIEW			
備考	1～2回：AB合同授業 AB別2クラス ICT利活用教育（LMSを介して資料提示、課題回収を行う） 授業内課題は、各症例検討における成果物を成績対象とする。後日成果物に対するフィードバックを行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

小関友記：脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。
大和田宏美：脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。
森永雄：大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-15			
		●	●	●					
科目名	理学療法学特論				単位 認定者	坂上 尚穂		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	理学療法学特論では、卒後の理学療法活動の基礎となる専門的な治療・管理技術の概念や方法および実践について学修する。また、臨床場面で必要とされる新たな知見を提示し、理学療法の可能性について探求する。								
到達目標	それぞれの治療技術に関する理論や実践の概要を修得し、その目的や適応を説明することができる。それぞれの治療技術の初歩的な段階について治療に導入し、実践できる。								
学修者への期待等	リハビリテーションには先人の知恵・経験により発展してきた多くの技術体系が存在します。本講義においては、その中でも「認知神経リハビリテーション」「バランス障害の評価」「義肢装具・杖・移乗の臨床」「スポーツ理学療法」などについて学び、臨床場面における評価や治療への応用や、生涯学習力を養うことを目的とします。未知の領域に対する好奇心と克己心を持って、学修に臨んでください。また、実技を含む授業のため、動きやすい服装で参加してください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	固有受容性神経筋促通法（PNF）の背景				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
2	固有受容性神経筋促通法（PNF） 上肢パターン（実技）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
3	固有受容性神経筋促通法（PNF） 下肢パターン（実技）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
4	認知神経リハビリテーションについて（総論）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
5	認知神経リハビリテーションについて（治療応用）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
6	バランス障害への評価と治療アプローチ（講義）				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和	
7	バランス障害への評価と治療アプローチ（実践）座位を中心に				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和	
8	バランス障害への評価と治療アプローチ（実践）立位・歩行を中心に				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和	
9	スポーツ理学療法（総論）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね30分）			佐々木 広人	
10	スポーツ理学療法（スポーツ外傷・障害の発生、再発予防）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね30分）			佐々木 広人	
11	アスレチックリハビリテーションの実際				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね30分）			佐々木 広人	
12	（仮）世界のスポーツ理学療法（講義）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			金谷 さとみ 見供 翔	
13	（仮）世界のスポーツ理学療法（実践）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			金谷 さとみ 見供 翔	
14	頸肩腕症候群・腰痛に対する生活指導（講義）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			坂上 尚穂	
15	頸肩腕症候群・腰痛に対する生活指導（実践）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			坂上 尚穂	
教科書	LMSオリジナル資料								
参考文献									
備考	AB別2クラス（1～11回・14・15回）、AB合同授業（12回・13回） 授業内課題は提出後、フィードバックを行う。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

坂上尚穂：本教科担当教員は総合病院などで長年勤務し、豊富な臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-BPT-03				
		●		●						
科目名	理学療法研究法				単位認定者	網本 和		授業内課題(発表会)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	試験(筆記)
				授業回数		15 回				
授業の概要	理学療法が科学として体系化され、より成熟したものになるためには、科学的根拠に基づいた理学療法の展開・実践が必要である。理学療法研究法では、理学療法における科学の重要性について理解し、研究を実践するうえで必要な基本的知識と研究方法について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 理学療法研究の必要性を理解し、研究の意義や目的を説明できる。 研究デザインや、基本的な研究の手順を説明できる。 基本的な統計学を理解し、研究法に合わせた統計手法を選択できる。 文献抄読を通して論理的思考力を身につけることができる。 									
学修者への期待等	日進月歩する医療において、対象者に最適な理学療法を提供するためには、自らの知識技術が最新かつ安全なものであるかについて不断の検証が求められます。そのためには浩瀚な先行研究の理解と、実践する理学療法効果の検証が必要です。このような課題を解決するため「研究法」の基礎を修得して臨床に役立てていただきたいと考えています。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	理学療法と研究、研究の意義・目的				「研究法」に関するテキストまたは文献を事前に学修する(概ね60分程度)			網本 和 小松 佳路		
2	根拠に基づく理学療法(EBPT)及び研究テーマの設定 診療ガイドラインの活用、ナラティブに基づく実践							網本 和 小松 佳路		
3	研究デザインの基礎知識							網本 和 小松 佳路		
4	研究論文(文献)検索と論文の読み方							網本 和 小松 佳路		
5	研究計画の立て方と研究倫理							網本 和 小松 佳路		
6	医療統計(妥当性・信頼性、感度・特異度、尤度比)							網本 和 小松 佳路		
7	対象の決め方・データのとり方 統計解析 1) 記述統計学							網本 和 小松 佳路		
8	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学①							網本 和 小松 佳路		
9	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学②							網本 和 小松 佳路		
10	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学③							網本 和 小松 佳路		
11	症例研究							網本 和 小松 佳路		
12	基礎研究の実践例提示と討論				スライド発表の準備をしておくこと (概ね60分程度)			P T 専攻教員		
13	臨床研究の実践例提示と討論							P T 専攻教員		
14	文献発表会と討論							網本 和 小松 佳路		
15	文献発表会と討論							網本 和 小松 佳路		
教科書	指定しない									
参考文献	『理学療法NAVI 臨床の疑問を研究に変える 臨床研究First Stage』網本和・他著、医学書院 『標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法』内山靖編、医学書院									
備考	A B 合同授業 12, 13回の担当者 理学療法学専攻教員: 網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

網本和: 大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行ってきた。